

▶ 第2回「地方創生SDGs金融表彰」応募取組全般の総評

- 昨年度と比較すると、地域課題が明確化され、具体的な対応策が講じられている取組が多く見られた。受賞した地方公共団体は、各地域におけるSDGs達成に向けて地域の将来ビジョンを描き、金融機関等と連携し、ビジョン達成に向けた大きなムーブメントを生み出しており、さらなる自律的好循環への展開が期待できる。
- 今後、より多くの地域において、地方公共団体と地域機関等が連携を強め、地域課題の解決を図る事業の拡大や新規事業創出を促進することにより、新たな投融資や収益を生み出し、得られた収益を地域に再投資され、地域課題の解決を図るとともに、地域経済を活性化する「地方創生SDGs金融を通じた自律的好循環の形成」が進み、本表彰においても、さらに多くの好事例を発信していくことを期待したい。

市と金融機関の協定に基づく、 「稼げるまち」に向けた自律的好循環の形成

(地方公共団体)
福岡県北九州市

(地域金融機関)
北九州SDGsクラブ
「SDGs経営サポート」

(協働団体) あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社北九州銀行、住友生命保険相互会社、損害保険ジャパン株式会社、第一生命保険株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社西日本シティ銀行、株式会社日本政策金融公庫、日本生命保険相互会社、株式会社広島銀行、株式会社福岡銀行、福岡ひびき信用金庫、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社三井住友銀行、三井住友信託銀行株式会社、三井住友ファイナンス&リース株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、明治安田生命保険相互会社、アクサ生命保険株式会社

【概要】

- 官民連携プラットフォーム「北九州SDGsクラブ」における連携を推進・金融機関による経営サポートを実施
- SDGs登録制度で「経済・社会・環境」の具体的な取組や数値目標の明示を求め、SDGsのゴール・ターゲットや市のSDGs未来都市計画と紐づけ
- 今年度はリーディング企業の創出に向けSDG-Xリーディングプロジェクト補助金を創設、SX・DX・GXの統合的かつ先進的な取組を市が財政支援し企業の成長と社会課題解決の同時実現を図る



「北九州SDGs登録制度」第1次登録証交付式の様子

【講評】

- 本制度のコンセプトに強く合致したモデル。
- 中小企業を強くすることで「稼げる」地域経済モデルを作り出そうとする姿勢が明快。
- SDGsクラブからスタートして登録制度・リーディング企業の創出へとステップアップしており、周辺地域への広がりも見せるなど完成度・実効性共に高い。



「SDGsクラブ」の様子 (会員数：約2,000)

環境ビジネスをテーマとするアワード型事業成長支援プログラム： 静岡県SDGsビジネスアワード

(地方公共団体)
静岡県

(地域金融機関)
静岡県SDGs
× ESG金融
連絡協議会

(協働団体)

株式会社静岡銀行、スルガ銀行株式会社、株式会社清水銀行、株式会社静岡中央銀行、しずおか焼津信用金庫、静岡信用金庫、浜松いわた信用金庫、沼津信用金庫、三島信用金庫、富士宮信用金庫、島田掛川信用金庫、富士信用金庫、遠州信用金庫

【概要】

- 令和元年に金融機関14行、経済団体4団体、行政を構成員とする静岡県SDGs×ESG金融連絡協議会を発足
- 令和3年度から静岡県が主催で環境ビジネスプランを育成、表彰する「SDGsビジネスアワード」を同協議会と連携し開催
- 静岡県をフィールドとして環境課題の解決に繋がるビジネスプランを県内外から募集し、課題解決への貢献度や革新性等の視点から優良プランを選定、選定されたプランには経営やマーケティング等の専門家がメンターとなり伴走支援を約3ヶ月間行い、県内金融機関や経済団体等も参画しながらESG関連融資制度の活用等必要な支援に繋げていく



R4アワードキックオフミーティングの様子

【講評】

- 静岡県と多数の地域金融機関を中心に、経済団体やSDGs関連企業も参画。当アワードを起点に県との官民連携の体制を構築できている。
- アワード後も受賞企業に対して環境貢献型ビジネス支援やSDGs・ESG融資など一体感を持った支援スキームである。また多様なメンターの起用も参考となる。



アワードイメージ

「ちばSDGs推進ネットワーク」を生かした 官民連携による地方創生の取組み

(地方公共団体)
千葉県

(地域金融機関)
株式会社千葉銀行

(協働団体)

ちばSDGs推進ネットワーク、株式会社京葉銀行、株式会社千葉興業銀行、千葉県信用保証協会、千葉県商工会議所連合会、千葉県経済同友会、千葉県経営者協会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県中小企業家同友会

【概要】

- 令和3年11月に「ちばSDGsパートナー登録制度」を創設し、同時に地域金融機関及び各経済団体等と県の計12企業・団体でSDGsの普及啓発及びSDGsに取り組む企業等への支援を目的とする「ちばSDGs推進ネットワーク」を発足
- 登録件数は申請受付開始から9ヶ月で約1,400件に達し、登録企業に対する金融面での支援の充実（信用保証協会がSDGsに取り組む企業に対し保証料を割引き、パートナー登録中小企業に対する低利の資金メニュー創設、等）も進展
- 今後は地域金融機関三行のサステナブルファイナンスによる融資実績を現行の8,654億円から2030年までに3兆2千億円まで引き上げることも含め、自律的好循環の形成に取り組んでいる



ちばSDGs推進ネットワーク発足式の様子

【講評】

- 自治体と金融機関が連携して大きなムーブメントを生み出している。今後のポテンシャルも大きく、自律的好循環への展開が期待できる。
- 県庁と地銀の強力な連携のもと県下の多くの事業者が参加するネットワークが作られていること、金融面・非金融面の支援があり波及効果も生み出されていること、持続性も高いことが評価できる。



パートナー制度募集資料

創業支援と社会・地域課題解決型企業の経営支援による 地方創生SDGs金融の取組み

(地方公共団体)
石川県七尾市

(地域金融機関)
のと共栄信用金庫

(協働団体)
株式会社日本政策金融公庫金沢支店、東京海上日動火災保険株式会社、七尾商工会議所、能登鹿北商工会

【概要】

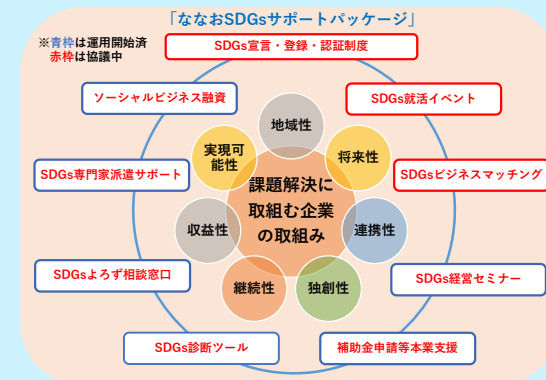
- 9つの組織による産学官金民連携「ななおSDGsスイッチ」を通じ、SDGs全体の普及啓発と推進する企業の支援を実施
- 地域課題解決に資する事業や事業者のSDGs経営を支援するための経営支援として、SDGs診断ツールによる取組状況の診断、専門家派遣を通じた手厚い相談支援、資金が必要な場合には専用の事業性融資商品での支援を実施
- 支援実績として、これまでに創業支援件数104件、創業支援に係る単独融資39件、創業支援に係る協調融資26件、SDGs相談件数44件、SDGs診断7件、SDGs推進に係る融資12件、能登SDGs市民大学の開講2回、SDGsセミナー2回を実施



「能登SDGs市民大学」の様子

【講評】

- 自治体と金融機関が連携してプラットフォームを活用している好事例。インパクトの視点も備えており、高く評価できる。
- 適切な座組が組まれたうえで、参画団体の連携により構築されている。



「ななおSDGsサポートパッケージ」のイメージ

干潟を起点に環境と産業の調和を目指す ～“シンボル”ドリブン型好循環の形成～

(地方公共団体)
佐賀県鹿島市

(地域金融機関)
株式会社佐賀銀行

(協働団体)
さぎんコネクト株式会社

【概要】

- 「有明海的环境保全に寄与すること」を条件に、SDGsに取り組む企業・団体を鹿島市が登録・認証する「肥前鹿島干潟SDGsパートナー制度」を運用（80事業者が登録）
- パートナー認証企業に対して地域金融機関は経営支援を実施し、資金調達に加えSDGsを事業の取組みに活かすアドバイスや、ビジネスマッチングなど経営全般のサポートを実施
- パートナー企業に対し、鹿島市の環境課題を解決するための事業案を公募、5つの課題に対して事業を実施し、そのうちの「荒廃園における放牧牛の販売」においては金融機関のサポートを通じ自律的循環を実現



「肥前鹿島干潟SDGsパートナー制度」のイメージ

【講評】

- 干潟保全というシンボルで地域企業を幅広く巻き込めるパートナー制度を構築している。事例も域内の所得循環に直結するグッドプラクティスであり、今後の広がりが期待される。
- 干潟をシンボルとしてSDGsを起点に、事業化支援につなげていく仕組みづくりが評価できる。他の金融機関への横展開など持続性や発展性も期待できる。



「鹿島モデル」のイメージ